

基地の無い  
平和な海を  
目指して

# 絶対的世評

## 沖繩・辺野古では、

疲労がピークを超えていても、

新しい米軍基地をつくらせないために

たたかい続ける人たちがいます。

現在沖縄の名護市辺野古では、長さ2500m、幅730mの新たな米軍基地がつくられようとしています。

私たち「大阪行動」は、辺野古の基地建設問題を決して沖縄だけの問題とするのではなく、自分たち一人ひとりの問題として受け止め、自分の足元から止めていこうという決意を持って、街頭でのピラ配り、署名活動を続けてきま

した。そして、同じように辺野古の基地建設を止めたいという多くの人々の思いは、6000筆を超える署名となって私たちの手元に届いています。これは、街頭での署名活動をはじめ、大阪近辺から集められた市民のみなさんの声なのです。

5月26日、私たちは第二次署名分、3143筆の署名を携えて、大阪防衛施設局に向きました。そして、この

署名に託された市民の声にしっかりと耳を傾け、同じ省庁の一員として、那覇防衛施設局に違法なボーリング調査の中止を働きかけるとともに、署名の宛先である内閣総理大臣、防衛庁長官、防衛施設庁長官、その他関係省庁に対してもボーリング調査を即時中止し、基地建設計画そのものを白紙撤回するよう働きかけることを求めました。しかし、対応した職員の態度から

はこの声を真摯に受け止めようとする姿勢が全く感じられませんでした。前回、私たちが提出した2700筆の署名についても、どのようなプロセスで

ました。しかし、その目に提出した質問書に対しても、後日、「辺野古のこととは管轄外なので回答できない」という返事が返ってきたのです。

に伝わり、それが全国的な流れになれば、必ずや辺野古の基地建設計画を白紙撤回させることができるのです。沖縄の8割以上の人々が反対し続けているにも関わらず、断念されない

関係省庁に伝えたのが全く曖昧で、いかに私たちの声が軽く扱われてきたのかが明らかでした。これに対して、参加したメンバーは強く抗議し、きちんと市民の声を伝え、然るべき働きかけを行うよう、3時間以上にわたって要請し

「管轄外」などと言わせてはいけません。法を破り、異常な行為を続ける日本政府、那覇防衛施設局を止められるのは、私たち一人ひとりの足元からの声のはずです。その声が自分たちの政府

「NO」の声なのです。私たちは、さらに大阪防衛施設局に声をあげ続けていきます。

## 1 座り込みへの参加は…

まずは那覇空港を目指してください。そこからはバス又はモノレールで那覇バスターミナルへ。バスターミナルから沖縄バス名護東海岸系統第77番に乗れば辺野古に着きます。時間で言うと那覇空港から3～4時間、費用は3000円ほど。「辺野古に基地を絶対つくらせない大阪行動」では派遣基金の助成もしていますので、お声をかけてください。

## 2 座り込みを続ける皆さんへ カンパのお願い

現在、辺野古では海上でのボーリング調査を阻止するために、抗議船を調達する必要がありますが、そのための資金が圧倒的に不足しています。みなさん、抗議船を調達するための緊急カンパをお願いします！(カンパ額、累積合計917,081円これらのカンパは、●へり基地反対協議会●命を守る会へ送っています)郵便振替口座

00960-6-77258

加入者名  
辺野古に基地を絶対つくらせない大阪行動

## 3 大阪で私達と一緒に行動して下さい。

- 私たちは毎週土曜日の15:30～17:00まで、JR大阪駅周辺で街頭行動を行っています。
- ボーリング調査の即時中止と基地建設の白紙撤回を求める署名にご協力ください。署名用紙は大阪行動のホームページよりダウンロードできます。(署名の累計は6,446筆)